第 3 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

日　時　平成 18 年 10 月 12 日（木）5 校時
学　級　３年Ｂ組(男 15 名　女 15 名　計 30 名)
指導者　教諭　菅　原　　裕　美

1　主題名　　「真のやさしさ」　　内容項目　２－（２）（人間愛、感謝と思いやり）

2　資料名　　「ぼくは伴走者」　（出典　「日本文教出版　あすを生きる　３」）

3　主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

学習指導要領では内容項目２－（２）の目標を、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ」としている。思いやりの心とは、自分が他に能動的に接するときに必要な心の在り方である。他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。このように考えれば、単なるあわれみや同情と考えられるべきものではないことが分かる。

また、内容項目４－（１）では、「自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める」としている。集団生活の向上には、集団の規律を守ることが必要であり、そのためには、自らの役割と責任を果たすという自覚が大切である。

思いやりと責任の自覚の二つの価値の間で葛藤させ、それぞれの道徳的価値を高めながら、真の思いやりとは何かを考えさせたい。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について

本学級の生徒は、日常生活を見ると、男女ともに、明るく社交的なグループと、おとなしく内向的なグループに二分化している。クラス替え直後は、互いのグループを受け入れようとしないところがあった。そのため、クラスの中で思っていることが言えない生徒が少なくなかった。

そこで、日常生活や道徳の時間などで、「思いやり」について考えさせる時間を大切にし、互いの良さを認め合い、励まし合うような雰囲気作りを心掛けてきた。

今回はさらに、「相手のためになる本当の思いやり・真のやさしさとは何か」を深く追求させたい。

また、道徳の時間に「モラルジレンマ」を取り入れるようにしたところ、「普段より意欲的に授業に参加できた」「みんなの考えていることが聞けてよかった」「人に流されないような、しっかりした判断力を身につけたい」という感想が多かった。二つの価値の中での葛藤問題を話し合うことにより、相手の立場に立って物事を考えたり、自分の価値感とは違う、他の意見も受け入れることができるようになってきたように思われる。

(3) 資料について

『主人公のぼくとひろしは小さい頃からの友達。ひろしは足が不自由なためにずっと車椅子での生活を送っている。ある日、ロサンゼルスオリンピック女子マラソンのアンデルセン選手の姿を見て、「自分の力で完走したい。」と、町内のマラソン大会出場を決意した。そんなひろしの真剣な目をみて、ぼくは伴走者を引き受けた。レース本番、危険な坂道で前へ進めずにいるひろし。安全を考え介助するか、ひろしの夢を実現させるため見守るか・・必死でこらえているひろしを見ながら、ぼくはどうしたらいいか迷ってしまった。』

二つの価値項目の葛藤資料である。「真の思いやりとはなにか」に触れ、「相手のことを考え、どのような行動を取ったらよいのか」を考えることにより道徳的判断力を高めることができる資料である。

4　指導にあたって

「あすを生きる」（日本文教出版）では、「ディベート」の形を取っており、どちらがより論理的に意見を述べたかという観点で勝敗を決めるようになっている。

今回は『モラルジレンマ』の手法をとることによって、勝敗を決めるのではなく、自分の意見を主張し、仲間の意見を聞きながら生徒個々の道徳性発達段階を上げることをねらいとした。

授業は二時間扱いとする。第一次では、状況を把握させ、ひとりで判断理由付けを考えさせる。第二次では、意見交流をさせながら、ひとつ上の判断・理由付けに触れさせることにより、判断理由付けをさせたい。

社会の変化に伴って、物事の考え方が多様化しており、自己責任が問われる世の中だからこそ、「モラルジレンマ」に取り組むことにより、普段の生活での諸問題に対しての道徳的判断力や、道徳的実践力を高めていきたいと考えている。

5　本時の指導

(1) ねらい

（第一次）道徳的問題を把握して、ぼくはどうするべきか判断し、理由付けを考えることができる。

（第二次）モラルディスカッションを通して、ぼく・ひろしの気持ちに感情移入させることにより、友達に対する思いやりや責任に関する個々の考えを深める。

(2) 展開＜第一次＞

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 10 分	1　車椅子体験したことを想起させる。 ○　体験してみてどんなことが大変でしたか。	・思うように行かない。 ・短かったけれど、疲れた。 ・手が疲れた。 ・段差が大変だった。 ・介助がないと困る。	・講演会での車椅子体験を思い出させる。
展開 30 分	2　資料「ぼくは伴走者」の範読を聞き、状況の把握を明確にする。 ○　なぜ、ひろしはマラソンに出たいと言い出したのだろう。	・アンデルセンの姿に感動したから。 ・アンデルセンが倒れ込みながらゴールインする姿を見て、自分も走ってみたいと思ったから。	・アンデルセン選手の写真を提示する
	○　なぜぼくは伴走者を引き受けたのだろう。	・友達だから。 ・ひろしがとても真剣な目をしていて、自分の力で走りたいんだということがよく分かったから。	・車椅子での大会出場には、必ず伴走者が着くことが条件であることを補足する。
	○　ぼくは係の人からどんな注意を受けたのだろう。	・伴走者は、走者の安全を守るためにいる。 ・トラブルが起きたときや、走者の体に危険や無理が生じたら、介助すること。 ・絶対に無理をさせてはいけない。	・伴走者の役割を明らかにする。
	○　３周目の上り坂でひろしはどんな様子なのだろう。	・坂を上れないで苦しそう。 ・砂や石が手について痛そう。 ・手袋が破け、手のひらや腕の内側がすりむけている。 ・血が出ている。 ・車椅子を前に進めることができない。	・ひろしの状況を明確にする。
	○　ぼくが手を出そうとしたとき帰ってきたひろしの言葉にはどんな思いがこめられているだろう。	・絶対に、自分の力で完走したい。 ・自分の夢を叶えたい。 ・ここで押したら、いままで頑張ったことが無駄になってしまう。	・ぼくが取ろうとした行動と、ひろしの気持ちを読み取らせることにより、葛藤状況を明確にする。
終末 10 分	3　ぼくはどうすべきか、各自第１次判断・理由付けを書く。 ◎　ぼくはどうするべきだろう。	・車椅子を押すべき（理由は・・） ・押すべきではない（理由は・・） ・迷っている（理由は・・・）	・ここでは、理由付けを大切にして、自分の考えを書かせる。

6　評価

道徳的問題を把握して、ぼくはどうすべきか判断し、理由付けを考えることができたか。

＜第二次＞（本時）

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 10 分	1　資料を再確認して、ぼくの葛藤状況を思い出す。 ○　ひろしはどんな思いでマラソンに参加しましたか。 ○　ぼくはどんな思いで伴走を引き受けたのだろう。 ○　係の人からどんな注意を受けましたか。 ○　ぼくはどんなことで迷っているだろう。	・絶対に自分の力で完走したい。 ・自分の力を試したい ・ひろしを完走させたい。 ・夢を叶えさせてあげたい。 ・走者の安全を守ってほしい。 ・絶対に無理をさせてはいけない。 ・危ないときには介助してほしい ・車椅子を押した方がいいか 押さない方がいいか 。	・葛藤状況を再確認するため、マラソン大会に対するひろしとぼくの思いと、伴走者としての役割を明確にする。
展 開 30 分	2　自己の考えを明確にする ○　みんなの判断・理由付けを確認し、質問、意見を発表しあおう。 3　迷っている人の意見を聞き、意見を求める。 ○　迷った人はどんなことで迷っているのだろう。 4　論点を絞ってディスカッションする。 ◎　車椅子を押すということは、どういうことだろう。 ◎　押さなかったら、どうなるだろう。	＜車椅子を押した方がいい＞ ①ケガをしてしまうから ②二周目まで頑張ったのだからいい ③来年も挑戦すればいい ④走者の安全を優先するべき ＜押さない方がいい＞ ①自分で頑張ると言っているから ②ここで押したら、いままで頑張ったことが無駄になってしまう。 ③ひろしの頑張りを信じて最後まで応援するのが、本当の友達だ。 ④最後まで走りたいという本人の意志を尊重する ＜迷っている理由＞ ・④安全を守るため、押した方がいいと思うけれど、ひろしの思いを裏切りたくない。 ・失格となる。 ・安全は守られる。 ・伴走者としての義務をしっかり果たしたことになる。 ・怪我がひどくなる。 ・後ろに転んで大ケガをするかもしれない ・伴走者としての役割を果たしていない ・時間がかかってもゴールでき、夢が叶うかもしれない。（真の優しさ・思いやり）	・ミニカラーコーンにより意思表示をさせる ①～④は発達段階 ・黒板に意見を張り出すことにより、各自の考えの明確化を図り、ディスカッションへ意欲付ける ・揺さぶりをかけ、小集団での話し合いの場を設定する。 ・ひろしの気持ちを考えながら、伴走者としての「ぼく」と、友達としての「ぼく」に感情移入させる。
終末 10 分	5　ぼくはどうすべきか、各自第二次判断・理由付けを書く。 ○　ぼくはどうするべきだろう。	・車椅子を押すべき（理由は・・） ・押すべきではない（理由は・・）	・ディスカッションをもとに最終的な判断理由付けをさせる

6　評価

モラルディスカッションを通して、友達に対する思いやりや責任に関する個々の考えを深めることができたか。

「コールバーグによる道徳性発達段階」

３水準６段階

水　　準	段　　階		
Ⅰ　前慣習的水準 （道徳判断は、自己中心的活動の反映である）	0	自己欲求希求志向	自己の願いが叶うならば、それは善い行いである。
	1	罰回避と従順志向	道徳的基準は外的、他律的で、自己の行為の外的な結果が、人から褒められるか、罰せられるかで決められる。
	2	道具的互恵、 快楽主義	自己の欲求や利益を充足するのに役立つ限りにおいて道徳的である。
Ⅱ　慣習的役割への同調 （社会的賞賛と非難に関する期待によって統制された役割への同調としての道徳判断）	3	他者への同調と よい子志向	親や仲間の期待に沿うように振る舞い、他人とよい関係を持とうとする方向で道徳判断がなされる。
	4	法と秩序の維持	義務を果たし、権威を尊重し、社会的秩序を維持するために伝統的な権威による罰を避けるように同調する中で道徳判断がなされる。
Ⅲ　慣習以後の自律的、原理的原則 （慣習にとらわれた判断をこえて自律的に判断する）	5	社会的契約と、 法律の尊重	正しい行為は個人的権利を考慮しながら、かつ社会全体から承認されるような形で判断される。
	6	普遍的、 原則的原則	社会的規制に合致するだけではなく、理論的普遍性と一貫性に照らして自己選択に合うかを判断していく中で、良心が働く。

＊中学生では段階４までの道徳性が発達するものと思われる。
参照：「資料を生かしたジレンマ授業の方法」明治図書

「ぼくは伴走者」発達段階表

車椅子を押すべき	車椅子を押すべきではない
段階１　　罰回避と従順志向	
＊係の人に言われたから ＊押すのが伴走者として当然 ＊かわいそうだから ＊ケガがひどくなるから	・押すとひろしが怒る ・おすとひろしにうらまれる
段階２　　道具的互恵主義	
・押しても、理由を話せばひろしも分かってくれる ・ここまで頑張ったのだから、押してもひろしは満足するだろう ・練習で完走できたのだからよい	＊自分なら、人の力を借りずに、一生懸命こぐ ＊押したら、失格になって後悔する ＊自分の力で完走したいと言っているから ＊成果を出し切れずに終わるのが嫌だから ・ひろしの夢が壊れてしまう
段階３　他者への同調、よい子志向	
＊次に頑張ればいい ＊町内マラソンなら、来年もあるから、また同じ大会に出ればいい ＊走る機会はいくらでもある ・どんな時でも伴走者の責任を果たさなければいけない	＊自分の力で完走させてあげたい ＊見守ることが、ひろしのためになる ＊最後まで頑張りたいだろうから ＊手伝えばひろしのためにならない
段階４　法と秩序の維持	
＊安全を第一に考えることが伴走者のつとめだから ＊本当の友達なら、友達の安全を考えるだろう	＊本人の意思を尊重する ＊ひろしがどんな気持ちで決心したのかを考えると押してはいけない ＊せっかくの決意をそう簡単に止めるわけにはいかない

・印は「資料を生かしたジレンマ授業の方法」明治図書より
＊印は本学級の生徒における第一次判断・理由付け　（授業日：１０月４日）

板書計画

「ぼくは伴走者」

絵

ひろしの思い
・自分の力で完走したい
・自分の力を試したい
ぼくの思い
・完走させてあげたい

係の人からの注意
・走者の安全を守ってほしい
・危険なときは介助してほしい
・無理をさせてはいけない

車椅子を押すべき

・けがをしてしまうから
・二周目まで頑張ったのだからいい
・来年も挑戦すればいい
・走者の安全を優先するべき

車椅子を押すべきではない

・自分で頑張ると言っているから
・ここで押したら今まで頑張ったことが無駄になってしまう
・最後まで応援するのが本当の友達だ。
・最後まで走りたいという本人の意思を尊重する

押すとどうなる？

・失格となる
・安全は守られる
・伴走者の責任を果たしたことになる

押さないとどうなる？

・ケガがひどくなる
・後ろに転んで大怪我をするかも
・時間がかかっても完走できる（夢が叶う）

月　　日（　）

道徳

「ぼくは伴走者」

年　組　番氏名

判断・理由付けカード（１）

＊『ぼく』は車椅子を押すべきですか、押すべきでないですか。〇を付けましょう。

車椅子を押すべき　　車椅子を押すべきではない　　迷っている

＊どうしてそう思うのですか。その理由を箇条書きで書いてください。

＊たくさん理由を書いた人は最も重要だと思うものに〇印をつけましょう。

月　　日（　）

道徳

「ぼくは伴走者」

年　　組　　番氏名

判断・理由付けカード（２）

＊『ぼく』は車椅子を押すべきですか、押すべきでないですか。〇を付けましょう。

車椅子を押すべき　　車椅子を押すべきではない

＊どうしてそう思うのですか。最もよいと思う理由を書いてください。

＊今日の授業の感想を書きましょう。

①けがをしてしまうから。

②いつもと状況が違うから

②助けるのが本当の友達

③来年も挑戦すればいい

（チャンスはまだある）

④

伴走者だから、

安全を

優先させる

①

押すとひろし

に怒られる

①

自分で

完走したいって

言っているから

②諦めず練習してきたのだから、押すと、ひろしの努力が水の泡になってしまう

③友達としてみ守りたい

③完走させてあげたい

④自分で頑張る
という意志を
大切にするため

⑤自力で完走したら、ひろしは成長するし、自信になるだろう。

車椅子を押すべき

車椅子を押すべきではない

押すとどうなる？

押さないとどうなる？

りブ車る者伴
、ル椅たの走
走が子め安者
者起にに全は
のきトいを、
身たラる守走

さ介合理体
い助にがに
。
しは生危
て、じ険
く必たや
だず場無

絶対に無理をさせてはいけない。